

雲の中の利尻山

2017年7月2日（日） 小雨から薄曇り

メンバー CL)桜田 SL)川久保 愛場，秋葉，尾崎，川上，木内，鯨井 8名

コースタイム：5:00発…5:30 4合目 野鳥の森/脱ぎタイム…7:05 第1見晴台休憩（ここより5分登ったところにトイレブース）… 8:10 第2見晴台～8:17 … 8:35 8合目・長官山通過 … 9:22 9合目（トイレブース）… 10:30 山頂～10:45 …11:40 9合目 … 12:10 避難小屋（トイレブース）～12:25 … 13:15 7合目～30 … 13:48 6合目 … 15:20 野営場帰着

行動時間10時間20分

前夜静かな雨降り。当初、明朝の出発が5時なら、4時起床では余裕がなかろうから、3時半起床で～と言っていた女子組。いよいよ就寝の段になり、明日の天気予報が雨から次第に回復とのことだから、急いで早立ちせず少し遅らせた方が得策では～と合意して就寝。

翌朝、4時起床と言っていた男子組の方が早起きで、すでにバンガローのドアが開いていた。

早い出発であろう、ガイド登山のグループなどが雨具に身をかためて集まっていた。小雨の森に、小鳥の声が響く。私たちは若干ずらしでの出発を合意して準備を整え、残置する荷をまとめた後軽くストレッチを行い、植生保護のため設けられた靴底洗い場を通過して歩き出した。

道は良く手入れされて歩き易い上、この島にクマはいないというので心理的にもリラックスできた。皆雨具を着けて出たがすぐに暑くなったし降りも止んで来たため、途中で脱ぎタイム。周囲の森は素晴らしく立派な原生林(樹種はトドマツ・ダケカンバ・ミヤマハンノキなどであるらしい)で、聞き慣れない鳥の声などもした。途中しばしばぬかるんだ箇所もあったが問題なく通過。林床のいわゆる高山植物はすでに花期を過ぎ、実になっているものがほとんどで、花の楽しみはお預け状態。ひたすら歩く。



5合目を過ぎると傾斜が増して来ると同時に、樹高が次第に低くなって来る。雪に押し伏され、山の傾斜に沿って曲がった木々である。登山道に差し掛かる曲がった枝も増えて、背丈のある人には「頭注意！」の道になった。6合目辺りから、先行者に道を譲ってもらうことが増え、こちらの汗の滴りも増す。シーズンとあって、登山者が非常に多く、渋滞する。

地形図上の標記では大方針葉樹となっているが、前記したとおり広葉樹もかなり混生しており、その下はマイズルソウがグランドカバーになっている。途中細い竹の藪が、やはりその丈を変えて両側に迫っている部分もあったが、やがてハイマツに変わり、晴れていれば山頂方面は元より四圍

の絶景が見渡せそうだが、生憎の雲の中。足下に集中するにはもってこいだっただけ。

7合付近「胸突き八丁」は皆「ここが？」と感じた程度で難なく過ぎたが、9合目辺りからいよいよ赤褐色の火山礫が足下を危うくする。とは言うものの、島民のみなさんが知恵を絞ったと思われる最大級の整備で、傾斜のきつい部分もかなり安定した足場を確保することができ、ちらほらと目を楽ませる花を愛でつつ、待望の利尻山山頂に立つことができた。

山頂神社脇にはすでに多くの登頂者が休んで居り、南峰への道を見下ろす北峰端の方で休み、眼下に広がるエゾノハクサンイチゲが咲き乱れる斜面や、わずかな眺望を楽しんだ。喉を潤しお腹を満たし、記念の写真を撮ってもらって下山開始。



下りも渋滞は下る譲り合いながら。小屋にて大休止。の15分休憩以外ほ下った。紙コップた一団に混じってと向かった。

人登る人でしばしば起こり、互いに登りでは通り過ぎただけだった避難7合目で礼文の情報など聞きながら休憩らしい休憩はなく甘露泉までを手に、この水を味わいに来ている冷たい“甘露”をいただき、野営場へと向かった。

ガイドブックによれば、時季が時季なら9合目付近でレブンヒナゲシなども会うことができるとのこと。麓に近くすでに青い実を付けた栄養たっぷり！という感じのツバメオモトの群生や、一面のマイズルソウ、ゴゼンタチバナなども、花の頃はさぞ壮観なことと想われた。

下山途上5合目辺りから、前方に緑の山と、はるかに平らな島影が見え隠れし、ちょっとワクワクしたものだ。（緑の山はおそらく、翌日歩いたペシ岬である）






花が少なかった～とは言え、以下に記す花々が、愛らしく登山者を迎えてくれていたことを加えて報告とする。

ツバメオモト・ゴゼンタチバナ・マイズルソウ・クワガタソウ・イワウメ・ウコンウツギ・キバナノコバノツメ・イワベンケイ・エゾツガザクラ・エンレイソウ・リュウノヒゲ・エゾノハクサンイチゲ・チシマフウロ・キバナシャクナゲ・ポタンキンバイ（orレブンキンバイソウ）・

アズマギク・ナナカマド・皆が足を置いて過ぎて行く道の真中の窪んだ部分に、ただ一輪ひっそり咲いていた青紫の小さな花が、エゾエンゴサクであると秋子さんの調べで判明！



7月3日（月）朝食前に旅館の目の前のペシ岬散策 朝食後徒歩で鴛泊港へ
鴛泊港9：20......香深港（民宿の方に手荷物以外を引き渡す）10：05/10：45......
内路バス停下車・礼文岳登山口11：05/11：20...合流点12：15...礼文岳13：30/13：
55...内路バス停15：40/16：26......香深井17：00...17：05民宿 香栄丸 泊

香深の停泊所前に、大崎さんが出迎えてくれていた。齋藤・関口のパーティーは、早い朝食後6:30頃出発して礼文岳を目指したとのこと。「大崎さんも一緒に〜!」と皆で誘い、バスに乗った。登山口の内路バス停に着いて登る準備をしていると、先発の2人が降りてきた。花は無いとの告知だった。

大方のコースタイムは上記のとおり。



実は前日、利尻山の下山途上で、礼文島から移動してきたという単独の男性が、礼文岳は天気が悪いとぬかるみがひどいと言われて、確か登るのを止めたとかの情報だったので、覚悟していたけれど、幸いその様なことは無かった。しかも、利尻山が長丁場で上部は結構な急登だったお陰?で、この山はちょっとした散歩風を感じられました。

「花は無い」とのことでしたが、ここでもちょっと時季がズレいるためなのでしょう。見事な〜という風は全くありませんでしたが、それなりに、可憐な姿を見せてくれました。

何よりよかったことは、利尻山と対照的に、登山者が少ないことでした。大変静かな山歩きを楽しむことができました。



山を下りると、島の親切な心遣いがありました。バス停近くの公衆トイレに、汚れた靴を洗うための用具が備えられていました。そこで皆靴、ストック、スパッツ等についた泥を洗い落とし、近くのお店でアイスクリームを買う人や、ビールを買う人、思い思いに時を過ごしますが、本数が少ないバス。途中乗降できるので、そぞろに歩くことになり、20分位?歩きました。バス代は変わりませんでしたへへ：

果てない美しさに包まれた最終日 礼文島桃岩展望コース散策

関口パーティーと合流しての最終日の散策は、当初計画の礼文滝コースから変更した桃岩展望コース。6時からの朝食後、宿にデポさせてもらう荷を玄関脇に下ろして最寄りバス停へ。知床（ここにも知床があるのだと知りました）行きバスにて終点下車。三々五々歩き出す。

7/4(火)民宿6:50...病院前バス停7:10......知床バス停7:23...灯台8:15...桃岩9:35...香深井10:30 昼食11:30...香深港12:25......稚内港14:20......稚内空港15:30...✈...羽田空港17:25

ちょっと見草が生い茂る牧場みたいな感じだが、植相がまるで違う。クマさえいないという北の島で、牧畜は無理なのか。牧畜に適する草が生えることができないのか。好天の下、このコースで見ることのできる花を紹介する掲示板を見た後、草原の中の散策路を一行になって進む。ゆるやかな登り。こんなところにショウジョウバカマ！ハマナス。と！あったー センダイハギ！その名前が歌舞伎の演目と重なって、ヤケに気になっていたのだった。東日本のハギとは大分趣が異なる美しいクリーム色の花だった。灌木というのではなく草という感じ。とても美しい。前を向いてずんずん進む一団と離れても、しつこく花を覗いて歩く数人あり。次々現れるチシマフウロ。中には大きな一抱えのブーケになりそうな株も。甘い香りを漂わせて、シシウド属の白い花が散見される。イブキトラノオ、バイケイソウ。

少し勾配をあげて元地灯台のある高台となる。エゾカンゾウが現れた。

そして、そこからはもう、キンバイ、トラノオ、カンゾウ、シシウドにフウロ…それに昨日までほとんど姿を現さなかった利尻山が右手遥かに見えて、幾度も幾度もシャッターを切る。

花々に彩られた草原、空の青、澄んだ海の美しさ。一筋の道が切り開かれた島の草原も、絵になって、いい眺め。本当に素晴らしい眺めだ。最終日のこの豪勢な時間が、みんなたまらなく嬉しかったと思う。

やがて、カキツバタやウスユキソウ、レブンシオガマも現れ、左手前方に桃岩がどーんと。観光客が一気に増えて賑やか。観光バスですぐ下まで来ているのだった。展望台に至る直前に、カラフトゲンゲやネムロシオガマを発見でき、嬉しかった。桃岩展望台で記念撮影。ここからは、観光客が歩かない静かな林道を辿って礼香寺、香深へと下る。（途中、地図にない真新しいトンネルの車道ができていた）およそ3時間のハイキングだった。

食事に入るまでの時間、靴の泥を落とそうと店の壁についていたホースを拝借して、無断だったのでお怒りをかってしまった。「温泉の前に落とす場所があるよ」と教えられた。

宿で予約していただいたお食事処で、待ちに待った「うに丼」にほっぺを落としそうな男性2人。その他の各々も、思い思いのメニューを注文。冷たい「クラシック」生ビールも付けて、大満足の昼食だった。「ごちそうさまでした」

さて、満員の乗客を乗せて、稚内行きフェリーが香深港を離れた。右舷のずっと先で、最後まで利尻山が見送ってくれていた。着岸後はこれまたリーダーが予約しておいてくれたタクシーに乗り、空港へと急ぐ。ここから樺太はわずか41キロだが、までは400キロだよ〜と運転手さん。樺太、サハリンに行ってみよう！が、今夜には我が家である。

夢にみた利尻、礼文の山旅。会の40周年記念山行が幕を下ろした。



出汁之介がお出迎え 稚内空港



鶯泊港から北麓野営場へ



さあ、利尻岳へ



避難小屋



エゾノハクサンイチゲ



ウコンウツギ



シラゲキクバクワガタ



ポタンキンバイ



ミヤマアツマギク



イワヒゲ



エゾツガザクラ



利尻岳頂上到着



エゾエンゴサク



うに、ほっけ、ほや、ナマコ…



朝のお散歩コース



鴛泊港へ



香深港から内路へ 礼文岳登山口



礼文岳へ



礼文岳頂上



内路バス停前のトイレ 靴を洗う



民宿



40PT総リーダー



知床バス停車



レブンウスユキソウ



ビネチドリ



イブキオラノオ



天晴、利尻岳



レブンキンバイ



桃岩周遊コース



チシマフウロ&キバナノコマノツメ



オオシシウド&レブンシオガマ



レブンキンバイ



桃岩にて



船上からの利尻岳